

ユニバーサルサービスの展開事例

「はあとねっと輪っふる」の活動

渡辺 新一

はあとねっと輪っふる

埼玉トヨペット(株) 新車部特販課福祉車両担当課長

「はあとねっと輪っふる」誕生の経緯

2001年10月に当社(埼玉トヨペット)ショールーム半分を利用して福祉車両を展示する「ウェルキャブプラザ」をオープンしたのですが、当社の取り扱い車種のほんの数台しか飾ることが出来ませんでした。そこで、「ウェルキャブプラザを、もっと有効的に活用する事が出来ないだろうか」「ショールームにいつでも人が集まっていて、外から見ても賑やかさが覗える、そんなショールームに出来ないだろうか」と、当社の社長が模索していたところ、知り合いの電動車椅子の方との出会いがありました。自動車ディーラーでは地域社会に密着した経営が求められており、地域社会への貢献という目的をもって、新しい発想である「輪っふる」立ち上げというプロジェクトが検討されるに至りました。

2002年4月1日、埼玉トヨペット本社ビル1Fのショールーム内に誕生した「はあとねっと輪っふる」は高齢者の方々、障害を持っているの方々、子育て中の方々、健常者の方々と垣根を作らず交流や情報交換が出来る場としてスタートしました。確実に一歩一歩少しずつ前に進んでいる手応えを肌で感じながら日々の活動に精を出しております。

そしてノーマライゼーション普及活動の実践の場にしたいと考え3年目を迎えました。

この「はあとねっと輪っふる」には5団体および個人の参加により運営されています。以下、その活動の概略をご紹介します。

はあとねっと輪っふるの活動

販売部門

毎週木曜・土曜日は輪っふる(ショールーム内)でパンを販売しています。

それほどお客様は多いわけではありませんが、当社の社員や近所の方々が買いに来てくれます。パンの販売を通じて人と人との繋がりが広がっていています。

その他、毎週金曜日には出張販売を行っています。埼玉トヨペットの事業所のひとつである「伊奈配車センター(新車点検を整備・配送する所)」と「一平蓮田工房(下取りした中古車を受け入れ、点検、整備をするセンター)へ輪っふるのメンバー3人で(障害者2名と当社の社員)販売に行っています。

福祉車両モニター車の貸出し

「輪っふる」では埼玉県内にお住まいの介護の必要な方、障害をお持ちの方を対象にモニター車として、福祉車両(ハイエース・アルファード・イプサム・オーパ・プリウス)5台を3カ月間、無料で貸し出しています。モニターの方々から必要な情報を提供していただき、今後の福祉車両の開発に役立てて行きたいと考えています。

就労研究

輪っふるの活動は、障害の重軽、種類を問わない中で、全ての事業を進行させるという原則があります。

1年目は、輪っふる自体活動が混沌としている状態で、就労研究部も「ふれあう」というテーマのもと右往左往していました。

2年目は、「ひろげる」をテーマに1年

目のドタバタの経験を関係機関に披露していきました。

それは輪っふるの就労研究というより、そのようなことに場を提供している埼玉トヨペットという企業の姿勢に関心が寄せられました。就労支援、教育、福祉、企業などの障害者の就労に関心のある各関係機関に、多くの輪っふるドタバタ劇を紹介しました。そのドタバタ劇は、障害者達のたどたどしい活動当初の働く場面から、2年を経過して自信に満ちた活動場面、またその活動を取り巻く人達の本音の部分が紹介されました。

「仕事らしいことをやって大騒ぎしてそれを世間に発表する。」ただそれだけの実践が企業就労を改めて考え直させられました。会社へ就職していった輪っふるのメンバーの例や、「障害」というよりそれぞれの「人間性」をポイントにした支援者側の態度が知らず知らず生まれていたことなど、やり方はどうであれその試みはあながち間違えではないことがわかりました。この実践の紹介は、多くの好意的な評価を得ました。

3年目のテーマはそれぞれの活動を「深める」ことにあります。今後も形式的なものではない、実のある就労研究を進めていきたいと思っています。

アートギャラリー

2002年4月、トヨペットのショールームにオープンした「はあとねっと輪っふる」では、同時に「輪っふる連続展示企画」もスタートさせました。障害者の様々な活動を支援する輪っふるが、障害者アートの分野にも光を当てたのです。それが「輪っふるギャラリー」です。

「はあとねっと輪っふる」は、障害を持ちながらも意欲的にアート作品を作り続ける人たちの作品を待っています。また、輪っふるでは、地域の皆様にも、作品の発表の場としてこの「展示スペース」を提供しています。ご興味のある方、沢山のご来場をお待ちしています。

農業部門

2002年10月、輪っふるの第2回福祉車両



年中行事になっている田植え



ショールームでのパン販売

モニターで3ヵ月間ハイエースを試乗して頂いた中島さんのお宅は農業を営んでおられました。福祉車両モニターをきっかけに出会い、お付き合いが始った中島さんに障害者でも田植えを経験できないだろうかとお願ひしたところ、快く引き受けてくださったのです。

田植えから始った輪っふるの農業体験はどんどん広がり、秋には稲刈りを、2004年3月にはじゃが芋植えも体験させていただきました。

現在では、田植え・稲刈りは輪っふるの年中行事となっています。

その他、シニアライフ研究会の公開講座(10月～11月にかけて5回)、月に1回のお茶会「呈茶の集い」を開催しています。

また、NPO法人「彩の子ネット」のベビー・コミュニケーション「赤ちゃんサロン」を当社会議室を利用して開催、1歳未満の赤ちゃん達がお母さんと一緒に集まり、月に2回の交流を深めています。